

徐霞客遊記の基礎的研究 (五)

—事類篇・洞 (その3)、全行程 (その4) 粵西遊日記 (その2)・黔遊日記—

薄 井 俊 二 埼玉大学教育学部言語文化専修国語分野

キーワード：徐霞客遊記、洞、伝統中国科学思想

1. はじめに

本稿は、明末の地理記述家である徐霞客の「遊記」について、基礎的な検討を加えるもので、次の二部構成からなる。第1部は「事類篇・洞 (その3)」として、「洞穴」に関する遊記の記述を、粵西遊日記について検討する。第2部は「全行程 (その4)」として、粵西遊日記後半と、黔遊日記記載の行程について詳述する。

2. 第1部 徐霞客遊記の洞穴記述 (その3)：「粵西遊日記」

2-1. 粵西遊日記一

遊記の巻三上は、「粵西遊日記一」。広西における崇禎10年 (1637) 閏4月8日から、同年6月11日までの記録である。

2-1-1. 洞穴の記述

① 礪巖 桂林府全州：1637年閏4月9日

- ・礪^{ろう}は、こする、みがく。後の山から流れる泉水が、岩穴を穿って出来ている。貫通洞。
- ・中は広く、筍垂柱が立つ。描写は簡略だが、入洞している。「1」と数える。

* 獅子巖 同：同日

- ・徐霞客は、その名を記すのみ。新訳は「内が広く、鍾乳石が乱立する」などと注記するが、遊記本文に記事がないので数えない。

② 龍隱洞 同：同10日

- ・洞門が西に開き、洞を出て西にゆく、とあれば、入洞したのだろう。「1」と数える。

③ 乳洞 同府興安県：同24日

- ・興安県城の西南12里。当時の董田村にある。いま乳洞岩という。戸崎哲彦氏に『桂林唐代石刻の研究』(白帝社、2005) 他の詳細な調査研究がある。
- ・上中下の三洞が縦に並び、「勝絶南州」などと称せられる名勝。
- ・しかし、遊記では炬を持って入洞したということのみ語られ、描写などはない。
- ・あるいは、描写があったのが、略されたのかもしれない。「1」と数える。

④読書巖 同府靈川県：同27日

- ・興安県南の白面山の山中にあり。
- ・宋人の「読書巖」の碑あり。笋や鍾乳石を簡略に記述。「1」と数える。

* 霊襟洞・陽流巖 同：同28日

- ・鎔村の東南に二洞あり、という。存在の情報のみ。数えない。

⑤桂林の諸洞 同府臨桂県…… [63]

⑤1：木龍洞：同29日

- ・漓江西岸、城内北部の明月峯の東麓にある。
- ・桂林城内のカルスト岩山に穿たれた洞のひとつ。出入しての、やや詳しい描写。

⑤2：韶音洞：同日

- ・漓江西岸、城北にある虞山の西麓。地元民は梯子で出入りし、貯蔵庫として利用。
- ・舜の祠があり、文人の碑銘がたくさん残る。「恍非塵世」。

⑤3：豊彩山：5月1日……2

- ・城内北部。風洞。豊彩山の腰部にあり、貫通洞。文人の碑文、仏像など多くあり。
- ・西部に仙鶴洞あり。

⑤4：玩珠巖：同日

- ・漓江西岸の伏波山の東麓。二層の裂け目があり、獣の口のような洞。洞口に伏波試劍石あり。

⑤5：七星巖：5月2日……この日は3だが「七星巖」全体で15

- ・漓江東岸。上洞と下洞（棲霞洞：冷水洞）。導者を得て、炬を持って探索。
- ・老君台、獺子潭や、「花瓶挿竹」などのみたて、龍江、曾公の記など、詳細な記述。
- ・省春巖。山の北側にある三洞。
- ・無名の一洞。彈丸巖？清巖洞？宋人らの記あり。→「北向」

◎二回目：6月2日

- ・碧墟閣をじっくり探訪。寺僧にあれこれと聞く。七星巖の西側の洞穴を考察。
- ・南巖は碧墟閣に塞がれているが、並ぶものが北の棲霞巖、中の七星巖。
- ・さらに棲霞巖の北に、朝雲巖と高峙巖で、「西向」の洞は合計「5」。
- ・東向（東南面）の洞は、曾公巖洞を中心に、東に列神之洞、西に慶林後巖、曾公巖の下に二洞で、合計「5」。
- ・北麓は、省春巖が「3」、会仙洞、さらに傍らの一洞で、北向は「5」。

⑤6：朝雲巖：同日

- ・七星巖の北。広い洞口を持つ。

⑤7：隠山：5月4日……6

- ・桂林の西郊外。
- ・朝陽洞、北牖洞、白雀洞、嘉蓮洞、夕陽洞、南華洞が、隠山六洞。
- ・深いところでは六洞同流。北牖洞以外の五洞は、底でつながっている。詳細な描写あり。

◎二回目：6月5日：→⑧

- ・清秀巖を探す途中で、昼食を取る。
- ・鄧老に清秀巖への道案内を頼むと、「炬を用意せよ」といわれる。
- ・約束して離れる。西へ。

⑤8：楽盛洞：5月5日

- ・臨桂県の南、漓山のやや南の山にある。簡略な記述。

⑤9：雉巖（漓山）：同日

- ・雉山洞がある。象鼻岩とまぎれがちだが、別物。

⑤10：南溪山：5月6日～7日……4

○白龍洞：5月6日

- ・漓山の南二里の、南溪山の山頂に口を開く。
- ・前に寺院があり、洞口は見え、上に登らないと洞があるのがわからない。
- ・洞内に千手観音。炬を購入して探索。
- ・劉仙巖とつながっていると聞いたが道が分からず、白龍洞口へ引き返す。

○劉仙巖：同日

- ・白龍洞の隣り。碑文多くあり。

○穿雲巖：同7日

- ・上巖の東南絶壁にあり。入るのに梯子が必要。碑文多くあり、書写。

○白龍の左洞（玄洞）：7日

- ・浄瓶山からの帰りに訪ねる。
- ・炬が無いので詳しくは調べられなかったが、洞前に乳柱が聳えるなど。「不減白龍」。

⑤11：浄瓶山荷葉洞：同日

- ・漓江を三里下り、崖頭浄瓶山に荷葉洞。
- ・石肺が洞中に垂れる。貫通洞。炬は不要。

⑤12：劉巖山の諸洞：5月8日……3

- ・県城から北へ一里ばかりの岩山、今の観音山（観音閣山）か。
- ・劉巖洞は、山麓の庵の後ろ。劉仙洞とは名前は似ているが別のもの。
- ・明月洞は、劉巖洞の上。崖の半ば。僧白雲が仏閣を洞門の上に建てている。「無甚奇」と評。
- ・名無し「一洞」は、劉巖山の北の崖に。
- ・出入りしてやや描写。白雲が「談此洞靈異」：迷い込んだものが五日後に出洞。

⑤13：華景洞：同日

- ・城内北部の宝積山の北麓。内部に僧侶が住む。

⑤14：象鼻巖水月洞：5月9日

- ・漓江に臨む、桂林を象徴する巖。

⑤15：穿山の諸洞：同日……7

- ・漓江東岸、南。穿巖：「乳柱中懸」。
- ・また開く「一洞」。穿巖が皇堂なら、ここは「奥室」。
- ・向きなどを観察した洞が、他に5あり。

⑤16：月芽山の龍隠洞：5月11日

- ・⑤5の七星巖のすぐ南。高く広い。幔幕が垂れるよう。龍がわだかまるような洞穴。
- ・昔、釈迦寺があったが、今は人はいない。宋人の石刻多し。

⑤17：屏風山の洞：同日

- ・漓江東岸、七星巖から北へいったところ。屏風巖ではなかったようだが「亦異境也」と評価。
- ・「程公巖」か？碑文多し。

⑤18：西山の諸洞：5月12日……2

- ・泉城の西に隣接する西山（今西山公園）。⑤7隠山を含む。
- ・洞あり（南洞）。「其内平整曲折」。「小巧見奇……一勝也」。
- ・石門。一室ありて、八窗。「亦以小巧見奇妙、又一勝也」。

⑤19：中隠山の諸洞：同日……3

- ・西山から西へ三里で敦睦村。その西北に中隠山。
- ・二洞。二次生成物あり。
- ・大洞（呂公洞）。仏子巖ともいう？宋代の石刻あり。詳細な描写あり。
- ・更に西の侯山に、銅錢巖（⑩）と陳搏巖（⑨）があると聞き、洞を見つけようと探索するも、何洞かはわからず。従者が「日暮、路險。此可莫入」というので、引き返す。

⑤20：辰山（老虎山）諸洞：5月13日……4 + 1（⑤21）

- ・泉城北部の漓江東岸。辰山を探し、見つからないで入るうちに「其山穹然有洞」を発見。
- ・中は「天光自頂四射」。
- ・地元民曰く「この洞は形から『獅子口』、色から『黄鵬巖』と呼ばれる。この山には三洞あり、下が平地、中が道士、上が黄鵬」と。いずれも南向き。
- ・道士巖に入る。碑文があり、読むと、ここが辰山だと分かった。今の猫児山。
- ・地元民王慶子の世話になる。堯山は明日とし辰山北麓の青珠洞へ。
- ・数十人の大所帯となり、炬を持って探訪。大きな鍾乳洞の詳しい描写。
- ・最後に転じて、南麓の平地巖に入る。

⑤21：桂林東郊外の諸洞：5月14日～15日……4

・矮山白巖洞：5月14日

・辰山から東北三里で、矮山。麓に白巖洞。垂石・蓮葉など二次生成物。

*矮山庵裏の洞：同日

・洞が牛や豚の畜舎になっていた。数えない。

・寨山の二洞。

・14日は通過し、一洞に泊。翌15日に詳しく観察描写。

・黄金巖……1

主には上中下の三洞あり。詳しく描写。

・他にも黄金巖には北向き二洞、西向き三洞あり。

・屏風山諸洞。飛石洞等たくさん探訪。……1

・再び辰山の諸洞を訪れ、石碑などを書写。無名の諸洞探訪、「1」と数える。→⑤20

⑥陽朔の諸洞…… [5]

⑥1：富教山の洞：5月23日

・陽朔県城から東へ、仏力司（福利鎮）の更に東。直立する崖の畔に東向きの洞。

・多くの仙妃像が並び、「求雨靈驗」と。

・しばらく洞内に留まり、洞口から東・東南・西南が見渡せる。

⑥2：白鶴山田家洞：5月24日

・白沙湾対岸。中は広く、上には鍾乳石がたくさん垂れる。仙像が置かれ、記が記されている。

⑥3：北山二洞：同日

・県城から西、龍洞巖の手前。西向きの二洞があり、南のものが龍躍洞。

・龍躍洞に入るに、石台や石座などがあり、「開洞記」の碑あり。

⑥4：陳搏山龍洞巖：同日

・県城の西、北山の西。

・先ずいわず龍洞巖を探索。池や二次生成物があり、八景の第一。詳しい描写。

・八門。同じ巖山に第一門から第八門までの、入り口がある。「1」と数える。

・中は一部はつながっている。詳細な描写。

・四五洞には「珠明洞」の扁題。

⑥5：来仙洞：同日

・莫姓のものに「牛洞」として教えられ、炬を担いで探訪。県城の西。

・鍾乳石などあり、詳しい描写。「来仙洞記」が残る。

⑦漓江沿いの諸洞…… [3]

*興平あたりの洞：5月25日

- ・尼が住む洞有り。炬を持って入ろうとするが、尼は「無奇多危」という。
- ・入り口あたりを観察するのみで「出洞」。数えない。

⑦1：冠巖：5月26日

- ・漓江の東岸にあり、洞内からの水が漓江に注ぐ。
- ・巖山が崩落してできたドーム型だが、更に二次生成物が出来ている。
- ・舟ごと入洞。「内更宏朗」。詩の碑。静聞と上陸して、舟を南田駅に向かわせ、後日合流。
- ・巖を登ると小さな洞がいくつかある。「1」と数える。

*寸金灘より北の洞：5月27日

- ・北側の岩壁に洞があるが、そこを通過。数えない。

⑦2：碧巖：5月27日

- ・巖に洞が穿たれ、北向き。それほど大きくはないが、「憑空撃遠之異勝地」と。
- ・入洞せず、外とから眺めただけが、「1」と数える。

⑦3：横山巖：同日

- ・碧巖と同様。東向き。南側に別の洞があり、「甚宏」で、「有門有奥」。
- ・入洞せず、外から眺めただけが、「1」と数える。

⑧県城西北部の洞：6月5日……8

- ・県城を西北に出た所に、西向きの洞と西南向きの洞が口を開ける。眺めるのみ。「2」と数える。
- ・黒洞に入る。南向き。くねくねしていてどんどん伸びて行く洞で、奥の方は不明。
- ・地元民曰く、「近郊の洞は、黒洞の他、西に牛角洞、西南に隠山の老君洞、北に清塘の下荘洞があり、清秀洞は知らない」と。
- ・清塘周辺に清秀洞があるかと思い、北へ向かうが見つからず。
- ・西に行き、斜めの洞に入洞。樵夫によれば、牛角洞だった。
- ・隠山へ向かう途中で、都籙巖に入る。中に神像はないが、そとに旗が立っていた。
- ・隠山→5月4日⑤7
- ・隠山の西、獅子巖の先に、天慶巖。碑がある。
- ・西南向きの二洞あり。南洞から入り、北洞に出た。「1」。あたりは王知府の園。
- ・剣のような岩（カルスト地形）がならぶ山を越えると、列神を安置した東向きの洞。
- ・清秀巖らしきものを見つけるも、時間切れ。

⑨琴潭巖・荔枝巖：6月10日…… [2]

- ・桂林から柳州へ向かう途上。
- ・村人を導人に、琴潭巖探索。炬つき。水洞。碑あり。詳細な描写。

- ・⑤19で捜し見つけきれなかった陳搏巖のことだと判明。
- ・琴潭巖に隣接して荔枝巖。中の広さを記述。

⑩桂林府郊外南西部の諸洞：6月11日……〔7〕

- ・楓木山榜巖洞、門は前は東北向き、後ろは西南向き、中ほどはスルーしている。
- ・石巖洞、西北向きで、後ろは東北向き、中ほどは「幽朗曲折」。
- ・社巖、平塘街北の峯の東隅にある。中で神を祭る。
- ・西北の峯にある洞は、架梯巖（or石鼓洞）といい、⑤19で捜し見つけきれなかった銅錢巖のことだと判明。
- ・北中南の三洞を詳しく探訪。「1」
- ・通城墟の上巖後洞。広い洞内や生成物を描写。
- ・上巖村の反対側に、上巖前洞。神が祭られている。

2-1-2. 粵西遊日記一のまとめ

粵西遊日記一の洞穴は91箇所と数えた。桂林都市部とその周辺のものが多い。

全てが鍾乳洞であるが、中部の広狭や長さなどの形状、二次生成物のありよう、神像が祭られているかなど、記述は多岐に亘る。自ら入洞しての記録もあれば、遠くから眺めて、地元民の話を書いて書いているところもある。入洞というも、記述が簡略な場合もあるが、遊記が刊行される前に錯簡が生じていた可能性が高い。もと詳細な記事だったのが校勘を繰り返す中で、読めるように略されたこともあっただろう。

2-2. 粵西遊日記二

遊記卷三下は、「粵西遊日記二」。崇禎10年（1637）6月12日から同年9月1日までの記録である。

2-2-1. 洞穴の記述

①羅山の諸洞 柳州府洛容県：6月14日……〔4〕

- ・柳州府治の少し東。
- ・山頂の洞。登るに道無く眺めるだけ。数えない。
- ・西麓の洞。こちら眺めるだけ。数えない。
- ・同憩者曰「山之東、有羅洞巖。有坊」と。
- ・山の東から内に入ると、北向きの内の洞。中を覗けたが、下りる手だてがない。
- ・東に石坊あり。其の後ろに、東向きの洞。これが羅洞巖？
坊上に「第一仙区」と書し、洞名は不署。門や柵が設けられているが、乗り越えて入洞。
宗教施設として用いられていた形跡。
- ・山の西麓へ戻り、一洞に入洞。その門は西向。あまり窈窕ではない。
- ・北にゆけば、先に眺めた西麓の洞。西向。下洞と上層の洞とあわせて「1」。
下洞に入る。東から洞底に入る。水洞。
上層の洞にも入る。広く鍾乳石が垂れ、「奇」なること、「陽朔珠明」以外で最高。

②魚立山の諸洞 柳州府馬平県：6月18日…… [2]

- ・馬平県城の南城外。
- ・一龕。内に山神像や大士像など。
- ・西向きの洞。山を貫通。八面玲瓏。「桂林諸洞所不多見也」。
東に二門、西に三門、南に一門が開く。

③読学巖と赤龍巖の諸洞 柳州府融県：6月25日…… [3]

- ・読学巖の洞。南向きの二門。東西並列。眺めるのみ。
- ・赤龍巖の洞。洞前の突起した二巖は龍虎のよう。入洞。
高宏で「底平而上穹」、仙田、中貯水。炬が無い一洞を窮めるに留まる。
- ・赤龍巖少し北の山に、洞。南向き。
- ・鐘洞巖。前記の山の東隅に口をあける二洞。
北側には神像。南側の下層に入洞。門に巨柱。

④真仙巖周辺の諸洞 同…… [11]

- ・鐘洞巖の北の百歩塘を越えると、山が三峯に分かれる。：6月25日
西峯の西向きの洞。「牧者憩歌於中。」入らず。
東峯西向きの洞。先ず入洞。浅くて棲託には堪えられない。
中峯の東向きの洞。次に登る。入り口に石の庇があり、「憩臥甚適」。あまり広くない。
- ・老人巖下の東向きの洞。：6月25日
「寿星巖」の碑。一洞両門。前後に仏龕。

◎二回目：6月28日

- ・老人巖の東向きの下洞。
広いが低く、ひんやりしている。
- ・真仙洞の西にある劉公洞。：6月29日
南山で東向きに卑伏、南山で北向きに高竈、北山で東向きの浅列の三洞あり。二番目。
南宋紹定元年（1228）太守劉繼祖が重開。炬が何本も必要だった。
「内甚寛敞」「左右森羅、昇降曲折」
- ・真仙洞周辺の洞：7月3日
真仙洞と向かい合う巖にあり、僧侶の声が聞こえる洞穴。
「真仙為天下第一、而此又真仙之第一」と絶賛。
- ・安靈潭と古鼎との間の洞。：7月6日
橋の南の山の半ばに北向き。土人が中で紙を製造。
- ・鉄旗巖。：7月6日
釣りをしていた童子の案内で行き着く。洞口は南向きで、百歩塘の陸壟山と相對している。
洞はそれほど広くなく、神像が列し、奇怪もない。鉄旗の名は洞外の景勝による。
洞門は閉ざされており、僧侶が不在だったが、雨がひどいので勝手に入る。
衣の水を絞り、僧侶の衣服を勝手に借りて着る。
やがてひとりの僧侶が帰ってくるが、霞客が勝手に上がり込んでいるので不機嫌だったが、やがて飯を用意してくれ、段々と打ち解けてきた。代金を払おうとするが受け取らなかった。

・沸水巖。：7月6日

鉄旗巖の僧侶が誤って、沸水巖を龍巖と教えた。鉄旗巖の西南にある、東北向きの水洞。

・龍巖。：7月6日

沸水巖から東へ半里、古鼎村の後ろの南向きの洞。高く上を向く洞と円形の洞からなる。

*独勝巖の小穴 同：6月25日

・僧廬の後ろに小穴。乳柱が豊かだというが、庵で光が入らず、中が見えず。数えない。

*安霊潭手前の二洞。：7月6日

北洞と南洞が見え、南洞を目指すも、入り口に行けない。雨もあり断念。数えない。

⑤真仙洞（老君洞） 同：6月25日

・「玉乳之所融結」により、白象・青牛・老君の形ができる。僧侶が棲む。炬がない。

◎二回目：6月28日

・炬を持ち、参慧の案内で入洞。

「千柱層列、百竇紛披」「石下有巨蛇横臥」。水があり深くは行けず。

・もう一つの穴では「無乳柱幻空、然下多龍背」

◎三回目：6月29日

・筏を組んで再び暗洞に繰返し入洞。洞門は西南向き。金星石・龍田の名跡あり。「寿山福地」の題辞。

・巖中での生活。「広く生活できる」「寂静だが泉声は轟轟」「蛇が居るが無害。蚊蚋多し」「頭大於身」の大蟲（コウモリのことか？）

⑥馬鞍山の諸洞 同：7月13日…… [8]

・仙奕巖。馬鞍山の半ば。西向きで、立魚山と相對する。

深さ一丈あまりしかなく、仙像がある。そとの岩には「釣台」の題辞。

・別の一巖。西向き。狭く、碑があった痕跡。

・巖右の窟。中は開朗で休める。

病人が中で仰臥していて、命をここに託していた。

・寿星巖。山半で西南向き。入り口は高く、中はそれほど広くはない。

中には青い牛や老人の頭部のように見える石がある。

・東へ北山の半の洞。

南向きで、前の洞と中空で通じている。高朗で閣のよう、「正巢棲穴処之妙境」。

・登山山付近の楊文広洞。甚だ深く、江底より府堂に通じているという。今は閉塞。数えない。

・南麓の東西二洞。東は蠻王洞。村の廟の北半里にあり、南向き。

あまり深くなく、石は青潤だが、さほど得難いものとは思わない。

西は名無しの洞。南向き。蛇が棲むといわれたがそんなことはない。

・東林洞。昔の王氏山房。

仏像が並び、僧侶が棲に棲んでいる。周囲も「幽幻」で「壺中之透別有天」。

⑦桂平県の縦穴 潯州府桂平県：7月22日

- ・平地に窪みが出来ており、底を水が流れる。
伏流水が流れ、上部の石が避けたところが穴になっているのであろうと、成り立ちを推測。

⑧白石山の諸洞 同：7月23日…… [2]

- ・三清巖。白石の下洞。西向きで横に大穴が開く。
「南の勾漏洞と通じている」との説を紹介した上で、それは違うだろうと。
滴り落ちる水滴を僧侶が竹で集めている。「清冷異常。」下に溜まり「龍潭」。
ベッドか机のような石があり、三清像が並ぶ。→「三清観」
- ・会仙巖。南向きの上下開窟。色は黄赤で、鍾乳石は無し。少し休憩。

⑨鬱林の諸洞 梧州府鬱林州陸川県：7月27日・28日…… [7]

- ・上巖。：7月27日
西向きに高く聳える。「極靈幻」で「別一小西天。」詳しい描写。
- ・水月洞の明洞：同日
西向きで水が中を貫く。「明洞以内の勝」と「明洞以外の勝」。
- ・水月洞の陰洞：同日
「陰洞水中の勝」と「陰洞陸中の勝」。
- ・水月陰洞の後洞：7月28日
水洞。洞門右崖に馬蹄形の石痕。所謂「天馬」。
- ・蝙蝠洞を含む三洞。：同日……「3」
左畔二門。鍾乳石はあるも深くない。
右畔一門。峯の中腹にあるも、深く、飛鼠千百。おそらく「蝙蝠洞」。

⑩勾漏洞 同北流県：8月1日～3日…… [3]

- ・宝圭洞。西向き。炬を掲げて入る。：1日。
詳細な描写あり。一度出る。
碑文を書写。：2日。
- ・白砂洞。「勾漏甲天下」「此洞甲勾漏」：1日。
前門は北向き、後門は南向き。丹砂、丹穴あり。題署多し。午前で二洞。
- ・黄婆巖。宝圭洞に向かい合う、別の巖山。：1日。
東向き。低いところは水もある。鍾乳石たくさん。詳細な描写。出口も東向き。

⑪都嶠山の諸洞 同容県：8月4日～5日…… [7]

- ・靈景寺。南山寺ともいう。岩穴に穿たれた穴に寺院を設けているので、実は「巖」。
巖は、都嶠山中最も高く大きい。
高さ三丈五尺、深さ五丈、横幅十余丈。横様に裂ける丹霞地貌の洞。
- ・西向きの三巖。靈景寺の北。靈景寺よりやや小さく門が設けられている。
- ・三清巖。「最正而潔」。おおきさは靈景寺とほぼ同じ。三清観がある。憩うに足る。
- ・宝蓋巖。三層の上層。
- ・南向きの二巖。三清巖の東。

- ・竹筒巖。都嶠山本体の北の岩山にあり。
両巖が並び立ち、門は西北向き。はなはだ深くはないが、「高爽殊甚」。

⑫羅叢巖 潯州府桂平県：8月11日…… [4]

- ・桂平県の西35kmくらい。白沙から北。百度などは「七十二福地のひとつ」というが杜光庭には記事なし。あるいは「十一、桂源福地」か。
- ・巖門は南向き。巖前に東西の両門。内に東西の両洞。炬を持ち入洞。
- ・西洞。中は広く、鍾乳石が垂れ下がる。
- ・東洞。西洞よりせまく、蓮柱乳筍。
- ・水洞。山西の南隅。南向き。広く、地中池がある。
- ・龍洞。山西の北隅。北向き。池があり天然橋。「神龍之淵宅」。道人が不思議な光をいうが、合理的な解釈で退ける。

2-2-2. 粵西遊日記二のまとめ

粵西遊日記二の洞穴記述は53箇所と数えた。静聞と顧僕が病がちだったので、柳州府北部融県の真仙巖や梧州府南部の水月洞・勾漏洞・都嶠山など、単独での探索が多い。

都嶠山は丹霞地貌。閩遊日記の武夷山や江右遊日記の龍虎山での記述と通じるものがある。

都嶠山以外はすべて鍾乳洞。多くの場合、炬と導人を得て、入洞し、内部の詳しい描写をしている。必ず、洞口の方向を記す。また洞内の碑文の模写や複写も行っている。

2-3. 粵西遊日記三

遊記巻四前半は「粵西遊日記三」。崇禎10年（1637）9月22日から同年12月10日までの記録である。

2-3-1. 洞穴の記述

*蕭村あたりの江南の洞 9月26日条

- ・左江兩岸の岩山が奇を競う。
- ・江南の岩は、アーチ型の洞をなす。門をなし、獅子や象の形の岩が聳える。眺めただけで、数えない。

①左江沿いの諸洞…… [6]

①1：獅子巖 9月26日条

- ・左江沿い旧荘あたりの、東岸に、「穹洞連門」。
- ・「北峯洞列三門」。眺める。新寧州城で「読州記於儀間、詢獅巖諸勝於土著」。

①2：大巖 9月27日条

- ・那勒のやや南の穆窰村のさらに南一里にあり。西向き。「山腹透其後。」「其上垂石」

①3：犀牛巖（西牛洞） 9月27日条

- ・麒麟村の先。

- ・「若独角中突。」「頗似禹陵窆石」。
- ・「南岸之下」、北向きの洞あり。「其門高張、其内崆峒、深不知所止。」
- ・「其内洞天福地」「静若太古、杳然忘世。」

*穿山の洞 9月28日条

- ・「ただ洞門を見る、不見透穴」。数えない。

*9月28日条

- ・「又有洞南向綴其半。」数えない。

①4：駄目付近の諸洞 10月1日条 「1」と数える。

- ・江西岸は左州。「三洞東啓」「其上洞關尤巨。」
- ・「崖半各有洞。」すべて眺めただけだが、やや詳細な描写有り。

①5：八仙巖 10月2日条

- ・宋村あたり。
- ・「崖半有洞東向」「洞門双穴如連聯」「垂石外間而通其内」。
- ・「倒影江潭、洵神仙之境。」

①6：媚娘山の龍井 10月4日条

- ・崇善県の少し手前。
- ・「路側有窞一円」。

②崇善県城付近の諸洞…… [4]

②1：碧雲洞 10月4日条予習的概述。

- ・壺関の真西二里。青蓮山南下の支。
- ・門東向き。詳細な描写。
- ・元は無名だったが、万曆に、顧鳳翔が命名した。
- ・盤龍窟、碧雲洞中の勝。

10月6日訪問

- ・松明を持って入り、何度も出入りした、とのみ記す。

②2：白雲洞 10月4日条予習的概述。

- ・壺関の真東四里。

10月5日訪問

- ・乾隆本が詳しい。
- ・列洞四、五。大小不一、皆西向き。やや詳細な描写。「1」と数える。

③仙洞 10月20日条 安平州

- ・北向き。洞後の懸壁に観音大士像。周囲地上にカルスト地形。

④飄巖 10月25日条

- ・寇を被ったとき、州人がここに避難。交人はあがってこられなかった。
- ・土人が加工して、入りやすくしている。
- ・土人は万全の避難場所だというのが、霞客は疑問を呈する。
- ・上垂下挺、中断不接。雁宕の龍鼻水に似ている岩がある。貴溪の仙巖との比較。

⑤向武州諸洞 11月18日条で概述…… [12]

⑤1：百感洞

- ・入洞探索。13日、14日、15日。
- ・州東北七里。
- ・百感巖は、向武三巖のひとつ。山の半ばに口を開ける。前門と扁穴のふたつ。前門は南向き。
- ・非常に詳細な描写あり。「雄邃宏麗」「西来第一、無以易此」と高評価。

⑤2：百感東洞

- ・入洞探索。百感前門の東。
- ・南向き。それほど深くはないが、「高爽窈窕。」詳細な描写。「曲折窈窕」と高評価。

⑤3：百感下洞

- ・入洞探索。百感前門の下。門は南向き。
- ・中に巨石が多く落ちている。水が多いときには洞に入ってくるが、今は一滴もない。
- ・詳細な描写有り。

⑤4：百感後巖の水洞

- ・入洞探索。16日。
- ・百感後門の下。百感村の南。東北向きで、後門が高く聳える。
- ・水が洞から出ており、筏で入る。「洞内両壁排空。」など詳細な描写有り。
- ・「杳渺幽閤」と高評価。

⑤5：瑯山洞（飄瑯巖）

- ・入洞探索。6日、12日。
- ・州北半里。巖は桂林の独秀峯に似ている。
- ・極めて詳細な描写有り。「層暈透漏」と高評価。

⑤6：瑯山下洞

- ・入洞探索。
- ・瑯山の西麓。やや詳しい描写。

⑤7：龍巷東北の上洞

- ・入洞探索。

- ・州東北七里。百感の西崖。門は西向き。
- ・中懸柱が多いが、百感には及ばない。珠のような丸石が多い。詳細な描写あり。

⑤8：瑯山中江の洞

- ・「過而未登。」
- ・瑯山東北二里。

⑤9：南江の上の洞

- ・「過而未登。」
- ・瑯山東南二里。

⑤10：州東北の洞

- ・「過而未登。」

⑤11：吉祥洞

- ・「聞而未至。」
- ・州西南四十里。「前後通明、溪流其間。」

⑤12：定稔洞

- ・「聞而未至。」
- ・州東南三十里。

⑥金榜山の洞 12月6日条

- ・石巖の小洞。「爽朗可憇」と。

- ・大洞。

村人によれば、大小二洞あり、霞客が訪ねたのは、小洞だった。

2-3-2. 粵西遊日記三のまとめ

粵西遊日記三の洞穴記述を、25箇所と数えた。左江沿岸のものが6、崇善县城附近が4、向武周のものが12とかたまって分布している。

すべて鍾乳洞である。内部の詳細な描写が見られるが、左江沿いの「犀牛洞」では、「其内洞天福地」「静若太古、杳然忘世。」、八仙巖では「倒影江潭、洵神仙之境。」と記述しており、道教の仙境的な景観であるという。ただこれは、徐霞客が洞天思想に与しているのではなく、そのすばらしさが、仙境のようだ、と比喩的に用いているだけであろう。

2-4. 粵西遊日記四

遊記巻四上後半は「粵西遊日記四」。崇禎10年（1637）12月11日から同11年（1638）3月27日までの記録である。

2-4-1. 洞穴の記述

* 双峯洞 12月21日条 柳州府賓州古漏山

- ・存在と名前をあげただけ。数えない。

①楊渡付近の洞 12月22日条

- ・桂林の独秀峯・向武の瑞巖と似ている岩山あり。
- ・その巖付近に洞穴。高さ数丈、広さ丈五。
- ・瑯巖と比較。

②三里周辺の諸洞 2月13日条でまとめて概述…… [19]

②1：韋龜洞 1月28日探索

- ・城西十里、韋龜村。
- ・真世外丹丘。桃源・谷口の勝をほしいままにす。
- ・村の西、門は北向き。はじめは狭いが、中は広々。洞頂に穴があり、天光倒映。

②2：琴水巖 2月13日探索。

- ・城東六里。琴水橋の北、中支土山が東南に尽きるところ。
- ・洞は山南の村の西山半。門は南向き。
- ・松明を持って入ると、西は透明の穴で、北は暗い穴。西の穴から出ると、山の西面。

②3：琴水巖の洞の東の巖門 2月13日探索？

- ・琴水巖の洞のやや下の東。門は南向き。
- ・外は高く、中は浅い。村人が、薪の貯蔵庫として使っている。

②4：仏子嶺北巖

- ・城西七里、浮塘村の西。
- ・洞門北向き、甚だ広い。中は潭、とても深い。
- ・潭の四周、石壁隙間なし。南に水が漏れる隙間があると聞く。

②5：仏子嶺南巖

- ・仏子嶺の南。
- ・門は西向き。前に潤があり、天然の水槽のよう。水涸れしていたので、潤から入洞。
- ・中は暗く狭い。壁がなめらか。最深部は、北洞から水が漏れてくる道。
- ・大水の時、北洞があふれ、その水がこの洞を流れるので、その摩擦で、洞と潤とが磨かれるのではないか。

②6：仏子嶺西北巖

- ・仏子嶺西北一里。
- ・門は東向き。韋村からの川がここに流れてきて、洞の前の穴に流れ込む。
- ・外門はたいそう広いが、三、四丈で行き止まり。

- ・その洞の南に隙間があり、下ると暗くなるが、やがて外に出る。
- ・向武の百感巖と同じ。

②7：独山巖、今の名は砥柱巖

- ・城南四里。
- ・1月13日探索。
- ・向武の瑯巖と似ている。山の腹に当たり、南北直透。

②8：小独巖

- ・城東南五里。砥柱と、東西で向き合う。
- ・独山巖を探索した1月13日に、一騎で探索。
- ・山は砥柱より小さいが、尖っており、仏像のよう。
- ・やはり門が開く。南向きで甚だ深い。「亦異境也」。

②9：白崖堡南巖

- ・城南十六里。
- ・1月27日探索。
- ・その山、南北会合し、「又成一洞天」。洞は南山の上で、重門が南向き。
- ・高い崖の上であり、堡から望むと上れそうにないよう。
- ・土人の案内で、松明を持って登ると、一門が東南向きに。これが後洞。
卓筆・青獅子巖と正対。洞を東北に登ると真っ暗で松明が必要。
遙かにかすかな天光が見えるので登っていくと、手のひらくらいの隙間。
上洞の下層が見える。そこからは体が入らないので、更に登ると、洞門に出る。
洞門はとても高く、「呼吸可通帝座」。
- ・第二層洞、第三層洞などもあり。

②10：白崖堡南山の下洞

- ・②9の後洞の西へ三百歩。
- ・おそらく1月27日探索。
- ・洞門は東南向き。洞内はふたまた。一は西南、一は東北。暗くて松明が必要。
- ・西南の方は、更に二層に分かれ、下層に井戸のような穴。
中空が管になっている鍾乳石あり。ストロー。さまざまな二次生成物あり。
- ・西南上層も、暗く、乳柱がたくさんできている。(後営の東洞の方が、乳柱が多い)。
- ・東北の方は浅いが、曲がりくねりは西南と同じ。

②11：青獅南洞

- ・城南二十里。西南に上林県との境界。
- ・1月28日、2月3日探索。
- ・山は石峯卓立で、洞は山の下。東西二門。
- ・東門は、高さ、広さとも数丈。石柱が洞口から並び、洞後の西まで。

- ・西門は、崇峻。下は巨石があり、上は高いドーム。
- ・松明を持って入洞。詳細な描写有り。

②12：青獅北洞

- ・青獅潭の北岸。青獅潭は洋渡の下流。
- ・1月28日、2月3日？
- ・北岸にも穹門が多く、南洞と向かい合う。

②13：堡北巖

- ・城南十二里、巨堡の北。
- ・門は東向き。深さ五、六丈で窪み、それ以上は入れない。

②14：独山村西北の水巖

- ・城南八里、大路の西。
- ・洞門は東向き。門前に石の橋。洞口は危石がごろごろで、中は真っ暗で、入れない。

②15：砥柱巖西峯の水巖

- ・城南四里。
- ・砥柱巖の西に峯あり。南側に門があり、北麓には北向きの門が。
- ・深く、水が満ちており、入れない。下が石が乱雑で、馬でも入れない。

②16：後宮東山洞（東巖）

- ・城北四十里。
- ・2月13日、14日探索。詳細は、2月14日条で。
- ・暗洞が東、明洞が西で、どちらも南向き。
- ・明洞。石柱聳え、下は絶壁。「真神仙窟宅」。
- ・身をかがめて暗洞へ。玉乳が、倒垂。土人が「棺材石」と呼ぶ、堆石。深いところでは、潭をなす。詳細な描写有り。

②17：周泊隘の洞……2

- ・城東二十五里。雲気が出没。
- ・1月15日探索。
- ・八寨の羅洪洞。名のみ。自注で、賊の占拠するところ、と。
- ・馬場洞。
自注で、居民なく、巨木あるのみ、と。

②18：浮塘後塢の石洞

- ・城西七里。
- ・山脈・地脈の記載。洞門は東向き。前に水あり。
- ・内は甚だ深く、土人は「千人は入れる」という。

*②18の東峯上にも、西向きの洞あり。高く、登り道なし。数えず。

2-4-2. 粵西遊日記四のまとめ

粵西遊日記四の洞穴記述は、20を数えるが、三里付近のものが19を占める。

2-5. 粵西遊日記全体のまとめ

粵西遊日記全体の洞穴記述は、189箇所を数える。ほとんどが鍾乳洞であるが、東南部の都嶠山は丹霞地貌である。入口だけしか入らなかったもの、入ったらしいが詳細な記述がないものもあるが、桂林周辺などは、繰り返し入洞して、詳細な観察記録を残しているものが多い。洞穴の評価についても、「静若太古、杳然忘世。」や「洵神仙之境」など、仙境を思わせる静かな環境、景観として評価している。

遊記は、基本的には日を逐って記述されるが、粵西遊日記から、まとまった記述がなされるようになる。すなわち逐日の条では簡略な記述ですませ、何日か分をまとめてテーマごとに記述するところで詳述する。例えば、三里付近には、柳州府南丹衛の三里に、崇禎10年12月22日から同11年2月13日まで滞在するが、その間に訪ねたところを、2月13日条でまとめて記述する。こうなれば、遊記というより、地志で、洞穴についても、まとめて、比較しながら記述できる。

3. 第2部 徐霞客遊記全行程（その3）：粵西遊日記三・四、黔遊日記一・二

凡例

- ・「1. 行程」で、徐霞客がたどった行程を、遊記をもとに日を追って同定する。
 - ・全ての資料で同名の場合は、下線を引く。
 - ・一部の資料で同名の場合は、()で資料の略号を記す。
 - ・遊記の表記とは異なるが、当該地であろうと推測される地名は〔 〕で示し、資料の略号を記す。
 - ・不詳の場合は〔不詳〕と記す。
 - ・「墟」「鎮」などの行政単位の異同は、同一と見なす。
 - ・「2. 経由地」で、徐霞客が経由した府県を確認する。明代の府県名で示し、()で現代(2014年)の地方行政組織名を記す。重複の場合は〈 〉で示し、現代の組織名は略した。
 - ・「3. 探訪先」で、山岳などの主な探訪対象を記す。()で別称や別表記を示す。
 - ・「4. まとまった地理既述」で、ある地域についてまとまった地理既述をしているところを記す。
- 「粵西遊日記」で参照した地図・書籍とその略称は次の通り（「黔遊日記」分は後述）。

東亜五十万分一地図 (T)⁽¹⁾

《广西壮族自治区地图集》編纂委員会編『广西壮族自治区地图集』星球地图出版社、2003 (①)

杜懷静主編『广西壮族自治区地图册』中国地图出版社、2013 (②)

百度地図 (BD) …ウェブ上の地図：2017年3月27日確認

黄坤『新譯徐霞客遊記』三民出版社、2002 (新訳)

現代地方志 (現)⁽²⁾

3-1. 粵西遊日記三

3-1-1. 行程

崇禎10年丁丑（1637）

9月

22日、南寧府治の宣化県城に病気の静聞を残し、太平府〔崇左〕へ発つことに。建武駅〔不詳〕に泊。

23日、船が出ないので静聞を見舞う。静聞を残し、船に乗り、審頭〔不詳〕で泊。

一旦徒歩で寺に戻り、再び静聞に別れを告げ、船に戻る。

24日、舟行。石埠墟、岔九〔新訳「扎州」、托州①BD〕、右江口を経て、大果湾〔不詳〕に泊。自注で右江と左江について詳述。

この日、南寧に留まっていた静聞没。

25日、舟行、左江を遡上。楊美〔揚美〕、魚英灘〔不詳〕を経て、金竹洲上流の野岸〔不詳〕に泊。

26日、舟行。南寧府新寧州（崇左地級市扶綏県）域に入る。蕭村〔新訳「肖漢」①BD、霄村②、肖漢（肖村）：現〕、新莊〔BD現〕、旧莊〔①②BD現〕、獅巖〔新訳〕、筆架山〔新訳〕を経て、新寧州城の象石の下で泊。新寧の地理を詳述。

27日、舟行。那勒〔①②BD現〕まで。上陸し、穿山・犀牛巖の遊。穆審村〔呷審墟T〕を経て、大巖〔不詳〕探索。穆審村、麒麟村〔不詳〕を経て、犀牛巖〔①、新訳「犀牛洞」〕探訪。那勒へ戻り、船中泊。

28日、舟行、兩岸に岩や洞。（江州区域に入る。）安定堡〔①②BD〕、花梨村〔BD〕を経て、曉夢村〔新訳「湾望村」①②BD〕に泊。

29日、舟行。馱塘〔不詳〕を経て、馱盧に泊。

10月

1日、舟行。以後南岸は南寧府、北岸は太平府。馱木〔新訳「馱目」T①BD〕、銀甕灘〔不詳〕を経て、捺利〔新訳「瀨瀘」①BD〕に泊。

2日、舟行。下果湾〔不詳〕、響源〔不詳〕、上果湾〔不詳〕を経て、馱僕村〔馱柏①BD現〕に泊。この間、兩岸の洞を船上より観察。自注で太平府のおおまかな地理を詳述。

3日、（記事なし。）

4日、陸行。太平府崇善県域に入る。新鋪〔不詳〕、崩勘〔不詳〕を経て、崇善県城壺関の映霞庵に泊。以後18日まで壺関に泊し、周辺を探索。壺関と周辺の名勝（青蓮山、白雲巖、石門塘）について予習的に詳述。

5日、左江を渡り、帰龍村〔不詳〕を経て、白雲巖探索。

6日、西北の帰順州へ行こうと思うが、異民族が道を阻んでいるというので、人々は北上して南丹經由で貴州へ行くよう勧める。そこで班氏神廟でおみくじを引く。廟にいた儒者膝肯堂と知り合いになり、帰順の土司に紹介の手紙を書いてくれることになる。西の碧雲洞を探索後、膝の家で飲む。

7日、壺関滞在。

8日、南寧の崇善寺から人が来て、「静聞が前月の28日になくなった」と知らせる。

9日～17日、雨がひどく、壺関に留まる。

18日、壺関を発つ。陸行、霞客は騎行。棲杏岷〔不詳〕、二岷〔不詳〕、陵球〔新訳「楞球」、侖球T、上楞球①〕、土地屯〔土地墟T〕、四把村〔不詳〕、那畔村〔那布①②?〕を経て、太平

府太平州(大新県)域に入る。叩山村〔不詳〕を経て、太平站〔旧州?①②、旧洲?BD、〕に泊。
19日、陸行、騎行。太平州〔太平川T、雷平鎮?①②BD現〕の館に至り、泊。
20日、陸行、騎行。安平州域に入る。仙洞(観音巖)を探索。安平州城に入り、泊。
21日、陸行、輪行。瀧水(黒水)をそのまま遡上して下雷州へ至る方が近道だが、交彝(異民族)が出没するため、道が閉鎖されている。恩城州、龍英州を経由する迂回路を取る。恩城州域に入り、恩城州城で泊。
22日、陸行、輪行。鼎促嶺を越え、養利州域に入り、聳峒站〔新訊「松峒」T①BD、松峒街②、松洞：現〕に泊。
23日、陸行、輪行。大岷〔不詳〕、翠村嶺〔不詳〕、を経て、龍英州(天等県)域に入り、龍英州〔龍茗鎮T①②BD〕城に泊。龍英州に関する地理と近年のできごとなどを詳述。
24日、輿夫を龍英で待つ。
25日、輿夫を龍英で待つ。飄巖探索。
26日、陸行、輿行。東村〔不詳〕、騷村〔不詳〕、三家村〔三叉墟T〕を経て、安村〔不詳〕に泊。
27日、陸行、輿行。南寧府⁽³⁾下雷州(大新県)域に入り、下雷州城に泊。
28日、陸行、輿行。前夜、壁がくずれて埋まってしまう夢を見る。西北へ帰順へ向かうが、莫彝の入寇があると聞き、逡巡しながら発つ。(百色地級市靖西県)域に入り、胡潤寨に至り、泊。交彝が行道上に陸続としていると聞き、西北行をあきらめ、東北に轅を返すことにする。
29日、胡潤寨滞在。
30日、帰順に行くか、下雷に引き返すか、東北へ向武へ行くか、占い、向武と出る。館人もそれを勧める。輿夫が怖がって集まらず、午後やっと出発。この道も、交彝が出没する道だった。南隴村〔不詳〕で老人の家に泊。

11月

1日、陸行、輿行。道でしばしば交彝と遭遇。羅峒村〔新訊「楽屯」、不詳〕、湧村〔不詳〕、下岷〔②、更村①BD?〕を経て、上岷〔不詳〕に泊。
2日、陸行、輿行。向武州(天等県)域に入り、南麓村〔不詳〕、坪瀨村〔平例T〕、六月村〔不詳〕、飄峒〔不詳〕、上控村〔不詳〕、陳峒〔不詳〕、那岷村〔那合①②BD?〕に泊。村毎に輿夫を交替。
3日、陸行、輿行。向武州城〔向都鎮T①②現〕に入り泊。
4日、向武州城で、輿夫が揃うのを待つ。(～18日)。黄紹倫と詩の応酬。
5日、地元人の周尚武と知り合いに。黄と飲む。
6日、向武州周辺を散策。黄と飲む。
7日、黄と飲む。
8日、周・黄と交歓。
9日、この地に、飄瑯巖・白巖寨・百感巖の三巖があると聞く。
帰順使者劉光漢と周尚武から、帰順の地の形勢などを聞く。
10日、黄と飲む。
11日、黄にお礼を考える。
12日、一人で瑯山の洞を探索するも、上にあがれず。
13日、韋守老とともに、百感巖を探索、簡略な記事。
14日、瑯巖と百感巖を探索。
15日、百感巖を探索。

16日、水巖を探索。

17日、黄から銀を贈られる。

18日、周等の見送りを受けて出立。輿行。

紅石崖の下を通る。洞が見えるが、上れないのでスルー。

刁村〔不詳〕、上林村〔不詳〕、峴腋〔更爺？BD〕、鄧村〔下鄧？①②BD〕を経て、■⁽⁴⁾村〔不詳〕で昼食。下寧峒の峒槽村〔不詳〕に泊。

11月3日から18日まで向武州に16日滞在。ここで、滞在中に探索した洞などを詳述。遊んだ洞は7（百感洞、百感東洞、百感下洞、百感後巖の水洞、瑯山洞、瑯山下洞、龍巷東北の上洞）、通り過ぎて上らなかった洞は3（瑯山中江の洞、南江の上の洞、州東北の洞）、名は聞いたが行かなかった洞は2（吉祥洞、定稔洞）。計12。百感巖が最高と評価。河川の流れを、洞と関連づけて述べる。入洞7洞についても詳述。

19日、輿行。寧墟〔寧乾郷？①BD現〕を経て、南那村〔不詳〕で輿夫を換える。石房嶺〔不詳〕を経て、石房村〔不詳〕で輿夫を換える。鎮遠州域に入る。龍那村〔不詳〕、南峒村〔不詳〕を経て、鎮遠州城〔進遠郷？①②BD現〕に泊。鎮遠州の形勢を記述。

20日、輿行、山道を行き、佶（結）倫州域に入り、佶倫州城〔新訳「進結」①②BD現、鎮結T〕に泊。このあたりの形勢を記述。

21日、輿行、佶倫の旧州〔新訳「高州」①、高洲：現〕に泊。

22日、輿行、陸寥村〔不詳〕を経て、那印村〔①②BD〕に泊。

23日、輿行、函龍村〔新訳「隆屯」、留屯？BD〕に泊。

24日、輿行、那印村を経て、佶倫州城に戻り泊。

25日、輿行、旧州へ向かう途上で、輿夫が盗賊を恐れ、荷物を放り出して、遁走。何とか人を集め、荷物を回収。旧州に泊。

26日、輿夫が揃わず、出発を一日延期。周辺の地勢を記述。旧州に泊。

27日、騎行、都結州域（南寧地級市隆安県域）に入り、都結州城に泊（～10月2日）。

28日、都結州城滞在。

29日、州官の農氏の案内で、騎行で、近郊の那咨村〔新訳「那隆」、那岬？①②BD〕、相村〔不詳〕を散策。

12月

1日、都結州城滞在。

2日、出立、輿行。那賢〔不詳〕、湘村〔不詳〕を経て、南寧府隆安州域に入る。巖村〔不詳〕、黒区村〔不詳〕、龍村〔新訳「龍正」〔不詳〕〕を経て、伐雷〔不詳〕で輿夫交替。巴潭村〔不詳〕に泊。

3日、輿行、伐連村〔不詳〕で輿夫交替。石林精舎を探索。把定村〔岬塘？T、巴店①②BD？〕を経て、隆安州城に入り泊。（～6日、隆安州城滞在）。瘡病を発症しており、輿夫を集めるのに苦労しているので、南寧への船便を利用することを決め、船賃を払う。

4日、この船で護送する予定の囚人が逃亡したとして、船がでない。

5日、「年の暮れになって、こんなところでグズグズしてはだめ。輿夫を雇って陸行しましょう」という顧僕の勧めを受け入れる。隆安周辺の地勢や人文などをまとめて詳述。

6日、出発、輿行。広嗣度橋を経て、金榜山〔新訳「又掛榜山」、榜山①BD〕に至る。顧僕等を前村に行かせ、霞客は瘡病にも関わらず、探訪。顧僕等と合流し、魚輿〔不詳〕に至る。村人

の言により、金榜山には大小の洞があり、霞客が探索したのは小洞だけであったことが判明。百浪村〔博浪①BD〕、龍場渡〔新訳「龍牀渡」、龍床T①②BD〕、鄧炎村〔鄧焱？T、上鄧①②BD・下鄧①BD〕、那縦村〔那重①BD、那重圩②〕を経て、那同村〔那桐鎮T①②BD〕に泊。7日、輿行。那炎村〔那元？①②BD〕で輿夫交替。梅圭〔梅桂①②BD〕を経て、振樓村〔鎮江墟？T、鎮流？①②BD〕で昼食。宣化県（南寧市轄区）域に入り、平陸村を経て、那吉〔那学？①②BD〕に泊。8日、輿行。麟村〔不詳〕で輿夫交替。旧大灘駅を経て、平鳳村で輿夫交替。宋村〔②既出〕、を経て王宮村に泊。9日、輿行。顔村〔不詳〕、登科村〔不詳〕、狼科村〔不詳〕でそれぞれ輿夫交替。石歩村〔石埠鎮①②BD既出〕で昼食。羅岷村〔羅文村①②BD〕に泊。10日、騎行。秦村〔不詳〕を経て、南寧府治に帰還。静聞の死を聞き、慟哭する。その死は、9月24日だったと聞く⁽⁵⁾。

3-1-2. 経由地

広西省南寧府府知宣化県（広西壮族自治区南寧地級市轄区）

同	新寧県	（同	崇左地級市扶綏県）
		（同	江州区）
同	忠州		
同	太平府左州		
同	崇善県		
同	太平州	（同	大新県）
同	安平州		
同	恩城州		
同	養利州		
同	龍英州	（同	天等県）
同	南寧府左江県下雷州*		
同	湖潤寨	（同	百色地級市靖西県）
同	向武州	（同	崇左地級市天等県）
同	太平府鎮遠州		
同	侏倫州		
同	都結州	（同	南寧地級市隆安県）
同	南寧府隆安州		
同	宣化県	（同	轄区）

3-1-3. 探訪先

南寧府新寧県犀牛巖（9月26日）

太平府崇善県白雲巖、金櫃山、將軍山（10月5日）

同 碧雲洞（10月6日）

同 安平州仙洞（観音巖）（10月20日）

同 龍英州飄巖（10月25日）

同 向武州百感巖の諸洞、瑯山巖の二洞（11月13日～16日、18日条に詳述）
南寧府隆安州石林精舎（12月3日）

3-1-4. まとまった地理記述

右江と左江（9月24日自注）

新寧州域（9月26日）

太平府あたりのおおまかな地理（10月2日自注）

壺関と周辺の名勝（10月4日）

隆安州の地理と近年の事件（10月23日）

向武州の名勝（11月18日）

隆安州の地勢と人文（12月5日）

3-2. 粵西遊日記四

3-2-1. 行程

12月

11日、19日に発つまで、南寧滞在。静聞の遺骨を鷄足山に葬ることを決意。

12日、崇善寺の僧侶と梁店の主人が、静聞の遺物を勝手に売却しようとし、霞客と衝突する。

この間、役所に訴えるも取り上げてもらえず。

17日、静聞の袈裟、経典、竹籠を得るに留め、他のものの売却は不問に付すことにする。遺骨の一部を入手する。

19日、ようやく一夫を得、南寧を発つ。陸行、歩行か。朝京門を出、高井〔不詳〕、婦仁鋪〔不詳〕、河丹公館〔不詳〕、橋村墟〔張村？①BD〕を経て、施埡駅〔不詳〕に泊。

20日、陸行。韋村〔韋屋？BD〕、火甲鋪〔不詳〕、山心〔不詳〕、長山駅〔不詳〕を経て、裏段墟〔不詳〕に泊。

21日、陸行。崑崙関を通り、柳州府賓州（南寧地級市賓陽県）域に入る。思籠〔思隴T①②BD現〕を経て、古漏山〔古漏関TBD〕を通過しながら探索。南丹衛（上林県）域に入る。丁橋村〔T〕、竹馬堡〔不詳〕を経て、小村に泊。

22日、陸行。公村〔不詳〕、思洛墟〔不詳〕、白墟〔白圩鎮？T①②BD現〕、牧民墟〔不詳〕を経て、楊渡〔楊渡口T、新訊「洋渡」①BD現〕を渡る。岩肌の洞穴を観察。桂水橋〔不詳〕、来遠亭〔不詳〕を経て、南丹衛三里城に入り、泊。翌年の2月13日まで三里城滞在。

23日、参将陸万里に手紙を書き、静聞を哭するの詩を同封する。

25日、程記を書く。陸に招かれる

26日、陸から黄道周や錢謙益の近況を聞く。

28日、陸に伴われ、三里城西十里の韋龜巖〔不詳〕を探索。具体の記事なし。

崇禎11年（1638）

1月

13日、独山巖〔不詳〕、小独山〔不詳〕を探索。ここでは具体の記事なし。

15日、三里の東二十五里の周泊隘〔不詳〕に遊ぶ。

27日、陸万里の孫の伯恆に伴われ、楊渡の西にある白崖巖洞〔不詳〕を探訪。ここではごく簡略な記事。白崖に泊。

28日、陸公の兄弟が到り、ともに楊渡の東南四里の青獅巖〔不詳〕に遊び、「打魚」を参観。三里に戻り、発病。寝込む。

2月

2日、少し回復。

3日、騎行で、青獅巖へ。更に鷄籠山〔不詳〕に行こうとするが、同行の張指揮使が雨中では、入れないと言い、引き返す。出発したいと陸公に申し出たところ、13日にしましうと、言われる。

9日、連日の雨が、この日は少し晴れ、陸公は送別会を開いてくれる。

13日、陸公に見送られ、三里を発つ。陸行。琴水橋〔不詳〕を経て山に入る。左営〔不詳〕を経て、後営〔不詳〕に泊。東巖〔不詳〕への遊を期したが、雨のため断念。

昨年12月23日から今年の2月13日まで三里に50日間滞在。三里周辺の地理や名勝を詳述。

14日、陸行。東巖探索。後営に戻り北上し、那力村〔那羅?①②BD〕、玄岸村〔不詳〕、藍澗〔不詳〕を経て、周安（来賓地級市忻城県）域に入る。朝藍〔不詳〕を経て、周安鎮に入り、泊。

周安周辺の地理や出来事を詳述。

15日、陸行。荔枝巖〔不詳〕を探索。蘇吉鎮〔思吉T①②BD〕を経て、都泥江〔紅渡鎮?〕を渡り、忻城県域に入り、羅木堡（新訳「又羅墨」〔不詳〕）で昼食、龍頭村〔①BD〕、古勒村〔古城?①BD〕を経て、高陽に泊。

16日、陸行。横山を越えて、永定司（河池地級市宜州市）域に入る。頭奎村〔同意?①BD、頭盔?②〕、永定司〔T①BD〕、石壁堡〔新訳「石別」①②BD〕を経て、草塘〔不詳〕に泊。この間、土司や頭目の世話になる。

17日、陸行。南山寺を経て、龍隱洞を見、慶遠府城に入り、香山寺に荷を解く。3月10日まで慶遠府城を拠点とし、周辺探索。

途中で道連れになった人達と再会する。南へ、龍隱山・南山に遊び、龍隱洞、双門洞探索。龍隱に泊。

18日、蚩蛇洞、龍潭、張丹霞墓洞を探索し、香山寺に戻って昼食。北に龍江を渡り、会仙山に向かい、麓の雪花洞を探索。頂に登り、雪花洞で泊。

19日、深井巖、百子巖、中観、東観、流丹閣、白雲洞を探索、香山寺に帰る。

20日、西竺字、黄山谷祠に遊ぶ。

21日～25日、雨に降り込められ、香山寺で過ごす。

26日、南へ、九龍洞山〔①〕に行き、丹霞遺蛻洞などを探索し、香山寺へ帰る。

27日、南西の多靈山の探索を期したが、人に引き留められ時間がなくなり、宜城北部の探索に切り替える。北に龍江を渡り、雪花洞を経て、三門洞を探索。詳細な描写。古城洞があると聞くと、時間切れで、香山寺に帰る。

28日、陸行。西南へ、多靈山へ向かう。雁山村〔不詳〕、彭嶺橋〔不詳〕、彭嶺〔不詳〕、彭村〔彭田?②BD〕、黄窰村〔不詳〕、鹿橋村〔不詳〕を経て、黄村〔不詳〕に泊。

29日、陸行。牛牢村〔不詳〕、都田隘〔不詳〕を経て、永順司（都安瑤族自治県）域に入る。都田村・秦村〔新村①②〕、大歌嶺〔不詳〕を経て、多靈山〔不詳〕に入り、探索。八洞村〔不詳〕、墳墓村〔不詳〕を石山村〔不詳〕を経て、山中の茅庵に泊。

3月

1日、洞を探索し、往路を引き返し、黄村の庵に泊。

2日、宜山県(宜州市)域に入り、下穿村旧趾〔不詳〕、截路村〔不詳〕、黄窰村〔不詳〕、裏諸村〔不詳〕、草峽を経て、観巖に至る。観巖探索。水脈を考察。香山寺に帰る。

3日～9日、香山寺にて地元の名士と交流。

9日、明日の出発を期す。

2月17日から3月10日まで慶遠に23日滞在。慶遠の地理や名勝をまとめて詳述。

10日、出発、陸行。西道堂〔不詳〕を経て、独山へ入り探索。抜けて、大峒堡〔②BD〕を経て、懐遠鎮に入り、泊。

11日、陸行。謝表堡〔謝村? BD〕、旧軍〔橋軍? BD〕を経て、徳勝鎮に入り、泊。15日まで滞在。

12日、ひとりで、北の袁家山〔不詳〕に登り、獅子洞に入洞探索。徳勝鎮に戻り、南の韋家山〔不詳〕に入り、洞穴に入り探索。徳勝の西營に戻ると、荷物は既に河池所〔不詳〕に送られていた。单身河池所に向かい、泊。

13日、地元の劉君にルートの相談をする。治安が悪かったり、遠回りだったり色々。

14日、ルートを占うも答えが色々。北山に遊ぶ。

15日、出発、陸行。都街村を経て、(金城江区域に入り)落策村〔不詳〕を経て、馬草塘〔不詳〕の北村に泊。

16日、陸行。馬草塘、界牌村〔不詳〕を経て、河池州域に入る。大湾村〔BD〕、橋歩村〔不詳〕を経て、金城渡〔金城江T、金城鎮①②BD〕を渡る。官村〔不詳〕を経て、鬼巖村〔不詳〕に泊。

17日、陸行。鬼巖墟〔不詳〕を経て、鬼巖〔不詳〕探索。盧塘村〔六墟? T、六塘? ①②BD〕、都明村〔不詳〕、乾照村〔不詳〕を経て、河池江沿い〔流水岩①〕を探索して、河池州城に入り、泊。

18日、騎行。楊村〔大楊①〕を経て山中に入り、大山嶺〔大山塘T〕を越え、南丹州(南丹県)域に入る。土寨関〔不詳〕、百歩村〔八舖墟T?、八歩? ①②BD〕を経て、巖田村〔干田村? BD〕に泊。

19日、騎行? 大江を渡り、金村〔不詳〕に泊。

20日、騎行? 雷家村〔羅家村? BD〕、灰羅廠〔灰楽? ①②BD〕、西楞村〔不詳〕、大徐村〔不詳〕、打錫関〔打錫鎮T BD〕を経て、南丹州城に入り、泊。24日まで南丹滞在。

南丹の水脈と山脈を概述。

21日、陸公の紹介文を莫某に出す。莫某、米肉と酒を贈ってくれる。

22日、南丹州の銀・錫廠について概述。

23日、南丹の地勢、物価や植生を概述。

24日、出発、輿行。夾山関(新訳「関上」①②BD)、彝州村〔不詳〕、欄路村(新訳「拉六」②BD)を経て、蠟北村〔不詳〕に泊。

25日、輿行? 肖村〔不詳〕、街旁村〔不詳〕、芒場鎮、壁坳村〔不詳〕、郊嵐村〔不詳〕を経て、縹渺村〔不詳〕に泊。

26日、騎行。巴坪場(新訳「巴平村」①②BD)、潭瑣〔不詳〕を経て、山に入り、東序村〔不詳〕、六寨場(新訳「六砦鎮」、六寨鎮T①②BD)、六寨哨〔不詳〕、渾村〔不詳〕、銀村〔銀寨①BD〕を経て、晚宛南村(新訳「晚宛上・中・下村」〔不詳〕)に泊。

27日、輿行。晚宛中村、同北村、岜歹村〔巴歹村BD〕を経て、艱坪嶺を越えて、貴州省下司域へ入る。由彝村〔不詳〕を経て、下司に入り、泊。

3-2-2. 「経由地」

広西省南寧府府知宣化县（広西壮族自治区南寧地級市轄区）

- 同 柳州府賓州 （ 同 賓陽県）
- 同 南丹衛三里 （ 同 上林県）
- 同 周安 （ 同 来賓地級市忻城県）
- 同 慶遠府忻城県
- 同 永定司 （ 同 河池地級市宜州市）
- 同 宜山県
- 同 永順司 （ 同 都安瑤族自治県）
- 同 宜山県 （ 同 宜州市）
- 同 （ 同 金城江区）
- 同 河池州
- 同 南丹州 （ 同 南丹県）

貴州省都勻府豊寧司 （貴州省黔南布依族苗族自治州独山県）

3-2-3. 探訪先

柳州府賓州古漏山（12月21日）

- 同 南丹衛楊渡附近の岩山と洞穴（12月22日）……観察
- 同 三里韋龜巖（12月28日探索）
- 同 独山巖、小独山（1月13日探索）
- 同 周泊隘（1月15日探索）
- 同 白崖堡（1月27日探索）
- 同 青獅巖（1月28日探索）
- 同 三里周辺の名勝と地理（2月13日条で詳述）
- 同 東巖（2月14日）
- 同 周安荔枝巖（2月15日）

慶遠府宜山県龍隱洞、双門洞（2月17日）

- 同 三門洞（2月27日）
- 同 多靈山：多靈三峯、八洞（2月29日）
- 同 宜山県の名勝と地理（3月9日条で詳述）
- 同 河池所北山（3月14日）
- 同 河池州鬼巖（3月17日）

3-2-4. まとまった地理記述

三里周辺：三里城、韋龜巖、琴水巖、仏子嶺北巖・南巖・西北巖、独山巖、小独山巖、白崖堡南巖、白崖堡南山下洞、青獅南洞・北洞、堡北巖、独山村西北水巖、砥柱巖西峯水巖、後營東山洞、仙廟山、浮塘浮石、周泊隘、浮塘後塢石洞、三里の地理（2月13日条）

周安周辺の地理と出来事（2月14日）

慶遠周辺：慶遠城、多靈山、龍江、西竺寺、龍隱巖、三門：北門・南門（双門洞）・中門、蚰蛇洞、盧僧洞、九龍潭、会仙山、百子巖、雪花洞、深井巖、中観、白龍洞、東観、流丹閣、西観、宜山、

多霊山、臥雲閣（3月9日条）

南丹の水脈と山脈概述（3月20日）

3-3. 黔遊日記一

○「黔遊日記」で参照した地図・書籍とその略称は次の通り。

貴州省地図集編輯弁公室編『貴州省地図集：内部用図』貴州省測繪局、1986年 前言（①）

『貴州省地図集-中国分省系列地図集、2017』星球地圖出版社、2017年（②）

『貴州省地図冊（中国分省系列地図冊）』中国地圖出版社、2013年（③）

百度地圖（BD：ウェブ上の地図）……2017年3月27日確認

東亜五十万分一（T）

黄坤『新譯徐霞客遊記』三民出版社、2002年（新訳）

3-3-1. 行程

3月

27日、輿行。広西省慶遠府南丹州域から、**貴州省都匀府豊寧長官司**（貴州省黔南布依族苗族自治州独山県）域に入る。

由彝村に至り、南丹からの騎を返す。由彝村で馬を得て、騎行。下司鎮（旧司）に入り、泊。

* 3月27日条は、粵遊日記四と黔遊日記一とで重複するが、記事内容は一致しない。

28日、歩行？輿担を求むるも得ず。やむを得ず、荷物持ちを雇い、発。餓鬼橋〔不詳〕を経、上司域に入る。弩や劔を帯びた怪しい輩に遭遇するも、難を逃れる。豊寧上司（上司鎮）に泊。洞を探訪。

29日、歩行。独山州域に入る。苴查村〔不詳〕、罈子窰村〔罈窰①現、罈子窰②③〕、関上〔不詳〕、鷄公関〔鷄公①、上鷄公③〕、羊角寨〔不詳〕を経て、独山州城（独山県城）に入り、泊。

30日、歩行。深河橋〔深河站①、深河③〕、兔場〔兔場鎮③詞〕、嘉坑関〔不詳〕を経、**胡家司：都匀長官司（都匀市）**域に入る。横梁〔不詳〕、塢裏村〔不詳〕、邛母村〔不詳〕を経、麥冲河〔墨冲河〕を渡り、麥冲堡〔墨充場T、墨冲鎮①②③BD現〕に泊。

4月

1日、歩行。近隣の桃源洞への探訪を試みるも、収穫なし。普林堡〔堡林T、普林①③現、河陽郷（普林）②〕を経る。周辺の山脈地脈を考察。下石堡、大馬尾河〔馬尾①②現、毛尾？③〕を経、小馬尾河を渡り、胡家司（都匀長官司）〔不詳〕、黄家司〔不詳、新訳「王家司」では？〕を経、都匀郡城（都匀市？）に泊。都匀郡城滞在（～3日）。

2日、都匀郡城散策。周辺の地理や洞穴を描写。

3日、歩行？午後出発し、北上、文徳〔文徳場T、文徳①③〕に泊。

4日、**麻哈州（黔東南苗族侗族自治州麻江県）**域に入る。

麻哈州城〔麻哈県城、杏山鎮①②③、麻江：現〕を経て、乾溪〔不詳〕に泊。

5日、歩行？麻哈大堡〔大堡T①②、大壑③、大壑田：現〕を経て、**平越衛（黔南布依族苗族自治州福泉市）**域に入る。乾壩哨〔甘巴哨①現〕を経て、平越衛〔平越T、福泉県城①、福泉市城②③現〕に泊。滞在（～8日）。

6日、平越衛滞在。

7日、平越衛滞在。

- 8日、おそらく歩行。貴州の人夫を雇い、出発。新添軍民衛（貴定県）域に入り、崖頭〔新訊「巖頭鋪」、不詳〕に泊。
- 9日、おそらく歩行。新添司〔新訊、貴定の東北、貴定?〕を経て、楊宝〔新訊「楊宝山、陽宝山」陽宝山①〕に泊。
- 10日、おそらく歩行。龍里軍民衛（龍里県）域に入り、貴陽府宣慰使司（同）域に入り、龍里司に泊。
- 11日、おそらく歩行。鼓角〔新訊「谷脚鎮」T①②③現〕を経て、新貴県（貴陽市轄区）域に入る。新貴県城（貴陽市）に泊。貴陽滞在（～14日）。
- 12日、貴陽西北の黔靈山の古仏洞探訪。記事無し。
- 13日、貴陽滞在。
- 14日、おそらく歩行。太子橋〔新訊「太慈橋」不詳〕、岬偃塘〔新訊「甘蔭塘」、中曹（甘蔭塘）①、中曹司街道②〕、水辺寨〔不詳〕、大水溝〔不詳〕、華佗佬橋〔不詳〕、独木嶺〔新訊「桐木嶺」①②③〕、青崖橋〔不詳〕を経て、青崖屯〔青岩鎮T①②③現〕に泊。
- 15日、おそらく歩行。燕楼〔燕楼①、燕楼鎮②、燕楼郷③〕、馬鈴寨〔馬鈴布依族苗族郷①②③〕、水車壩〔水井壩①〕、八壘〔不詳〕、永豊荘〔不詳〕を経て、白雲山に入る。白雲庵に泊。白雲山探訪（～18日）。
- 16日、白雲山探訪。
- 17日、白雲山探訪。白雲山の各山脈などを詳述。
- 18日、おそらく歩行。白雲山を下り、永豊荘に至る。ここから西へ進み、広順・安順を経た方が近道だが、貴陽で「その道は苗蕃がはびこっていて危ない。遠回りだが、西北へ東基・平壩を経由する方が安全だ」とのアドバイスをもらっていたので、西北へ向かう。八壘、乾溝〔干溝①〕、土地関、谷精、東基下寨、東基上寨を経て、平壩衛（安順地級市平壩区・平壩県）域に入る。野鴨塘〔野雅壩②③〕あたりで洞穴探訪。羊甲崖〔羊角寨?①〕、唐帽山、猪槽堡〔①〕、柳家堡〔不詳〕、狗場堡〔狗場壩①、大狗場②③〕を経て、狗場堡の西の苗族の村に泊。
- 19日、人夫として雇っていた王貴が、路銀の一部を盗んで逃亡していた。人夫を雇えず、自ら荷物を持ち出発。歩行。九家堡〔九甲?①〕に至り、一夫を得る。二家堡〔不詳〕を経て、江清〔新訊「江青」不詳〕に至り、周辺の洞穴を探索。澄川を洛陽橋〔上洛陽①〕で渡り、銅鼓山〔長洞山?①〕、銅鼓寨〔不詳〕を経て、銅鼓洞〔不詳〕を探索。平壩衛城に泊。
- 20日、歩行。石子哨〔不詳〕、水橋屯〔不詳〕、中火鋪（旅人用）を経て、安順州普定衛（西秀区）域に入る。楊家関〔①〕、王家堡〔不詳〕を経て、石仏洞〔不詳〕を軽く探索、頭鋪〔①②③〕を経て、普定衛城（安順）に泊。
- 21日、歩行。出発、楊橋堡、中火鋪、龍潭山下を経て、鎮寧州安莊衛（鎮寧布依族苗族自治県）域に入り、龍井鋪〔T①〕、啞泉をへて、鎮寧州安莊衛に泊。安莊衛に泊。滞在（～23日）。
- 22日、双明洞探訪。
- 23日 出発、白水鋪〔白水街T、白水河①、白水鎮:現〕を経て、大瀑布（黄果樹大瀑布）を見る。川を渡り、（関嶺布依族苗族自治県域に入り）、鷄公嶺〔不詳〕、太華哨（新訊「大花哨」①）を経て、関嶺鋪〔関嶺場T、関策鎮①②③現〕に泊。
- 24日、荷駄の馬を借りられた。交水（雲南の沾益）まで。北斗鋪〔不詳〕、安莊哨〔不詳〕、安籠鋪〔安隆①②③現〕、象鼻嶺〔不詳〕を経て、永寧州安南衛域に入り、查城駅〔永寧鎮①②③現〕に泊。

3-3-2. 經由地

広西省南丹州

貴州省都匀府豊寧長官司（貴州省黔南布依族苗族自治州独山県）

- 同 独山州 （ 同 ）
- 同 都匀長官司（ 同 都匀市）
- 同 麻哈州 （ 同 黔东南苗族侗族自治州麻江县）
- 同 平越衛 （ 同 黔南布依族苗族自治州福泉市）
- 同 新添衛 （ 同 貴定県）
- 同 龍里衛 （ 同 龍里県）
- 同 貴陽府宣慰使司（ 同 ）
- 同 新貴県 （ 同 貴陽地級市轄区）
- 同 平壩衛 （ 同 安順地級市平壩県）
- 同 安順州普定衛 （ 同 西秀区）
- 同 鎮寧州安莊衛 （ 同 鎮寧布依族苗族自治州）
- 同 （ 同 関嶺布依族苗族自治州）
- 同 永寧州安南衛 （ 同 ）

3-3-3. 探訪先

都匀府豊寧長官司上司の囤山東麓の洞穴（3月28日）

麥冲堡の桃源洞と観音洞（4月1日）…桃源洞は行けなかった

貴陽府新貴県の古仏洞（4月12日条）…「遊した」とのみ記録

白雲山（4月15日～18日条、17日条で名勝概説）

平壩衛の野鴨塘附近の洞穴（4月18日条）

江清村付近の洞穴（4月19日条）

銅鼓山の銅鼓洞（4月19日条）

安順州普定衛手前の石仏洞（4月20日条）…軽く触れる

の双明洞（4月22日条）

の大瀑布（黄果樹大瀑布）（4月23日条）

関嶺鋪の名勝（4月23日条）

3-3-4. まとまった地理記述

独山あたりの山脈と水脈（3月29日条）

都匀府の名勝（4月2日条）

白雲山の名勝（4月17日条）

三衛（普定衛・安莊衛・安南衛）をまとめて説明（4月21日条）

盤江上流にあたる永寧州あたりの地脈を詳述（4月24日条）

3-3-5. 事件

- ・道のり、武器を携えた四人組と同道となるも、襲われずに済む。（3月28日条）

・荷物持ちとして雇っていた王貴という男が、路銀の一部を盗んで逃亡。(4月19日条)

3-4. 黔遊日記二

3-4-1. 行程

4月

25日、荷駄先行し歩行。安順府永寧州查城駅を出発。梅子関〔不詳〕、黄土壩〔新訳「黄土坡、黄豊」、黄土塘①〕、新鋪を経て、白基観で休憩。この間の見聞を浄書。象を見る。盤江橋を渡り、盤江について考察。安南衛(黔西南布依族苗族自治州晴隆県)域に入り、新城〔不詳〕を経て、旧城〔不詳〕に泊。

26日、陸行。保定鋪〔保定營①〕、涼水營〔T①〕を経て、海馬嶂を探索し、洞穴を探索。海馬鋪〔新訳「哈馬哨」①②③〕、小米馬場を経て、安南衛城〔安南T、晴隆県、蓮城鎮①②③〕外に泊。

27日、東へ引き返し、威山〔新訳「歪山、巍山」〕探訪(三明洞など)。威山の脉を記述。安南衛城に戻り、再び西行。烏鳴鋪〔不詳〕、納溪鋪〔不詳〕を経て、新興所(普安県)域に入り、西坡城〔江西坡鎮①②③〕に泊。

28日、陸行。倪納鋪〔泥拉鋪?①〕、保家楼〔不詳〕、芭蕉関〔①〕を経て、附近の洞穴を軽く探索。新興城〔新庄T、普安県・盤水鎮①〕を経て、周辺の観音洞を探索。蘭家坡〔不詳〕、羅漢松〔不詳〕をへて板橋鋪城〔三板橋下①、南湖街道②、三板橋鎮③〕に泊。

29日、陸行。三板橋を渡り、普安州(六盤水地級市盤県)域に入る。鸚哥嘴〔新訳「英武」〕、革納鋪〔英武(革納鋪)①、英武②③〕、軟橋哨〔軟橋哨①②③〕、旧普安〔旧普①②③〕、水塘鋪〔水塘鋪①③〕、高笠鋪〔不詳〕を経て、普安城〔盤県T、盤県特区①、城関鎮②③〕に入り、泊。普安州の地勢について詳述。

5月

1日、荷物を旅館に預け、南の丹霞山〔②〕へ。石亭壘址〔不詳〕、南板橋〔板橋T①〕、趙官屯〔趙官①〕を経て、丹霞山へ入る。山寺に泊。丹霞山滞在(～3日)。

2日、寺僧影修からレクチャー。北には、趙官屯、遠くに普安城、さらに遠くに八納〔歴史地図「八部山」〕。南には、山嵐洞、さらに遠くに樂民所〔樂民鎮①②③〕の南部。②西には、大水塘、など。寺で草稿をまとめる。

3日、寺を辞し、下山。趙官屯、南板橋を経て、普安城に入る。周囲にある碧雲洞探訪。

4日、人夫が雇えず、普安城滞在。

5日、同じ。

6日、「賈而儒」である金重甫という人物と知り合う。金も探してくれるが見つからない。

7日、金が旅立つという。餞別をもらう。

8日、やっと人が確保できたら、旅館の主人が銭を横取りした。自注で、旅の途中で遭遇した悪人たちを総括。荷駄の馬は確保した。

9日、ようやく普安発。雲南坡、馬鞍嶺、坳子鋪、海子鋪〔海憂T、①、海鋪③〕、大海鋪、何郎鋪〔蛾螂鋪①、哦螂鋪②〕を経て、亦字孔駅〔亦資孔T①②③〕に至り、泊。

(ここで終わり、次は「雲南二」まで飛ぶ)

3-4-2. 経由地

貴州省安順府永寧州（貴州省安順地級市関嶺布依族苗族自治州県）

- 同 安南衛（同 黔西南布依族苗族自治州晴隆県）
- 同 新興所（同 普安県）
- 同 普安州（同 六盤地級市盤県）

3-4-3. 探訪先

安順府安南衛保定鋪附近、海馬嶂の洞穴（4月26日条）

- 同 威山の「三明洞」など（4月27日条）
- 同 新興所芭蕉関附近の洞穴（4月28日条）
- 同 観音洞（同）
- 同 普安州の丹霞山（5月1日～3日条）、碧雲洞天（3日条）

3-4-4. まとまった記述

盤江に架かる橋について（4月25日条）

普安州の地勢（4月29日条）

丹霞山から（5月2日条）

旅の途中で遭遇した悪人達を総括（5月8日条自注）

注

- (1) いわゆる「外邦図」のひとつで、日本陸軍参謀本部陸地測量部が作成したもの。日本の国立国会図書館蔵。今回参照したのは、以下のもの。「南寧」「龍州」「柳州」「黎平」「貴陽」「雲南」。
- (2) 中華人民共和国になって、地方政府が発行する地方志がある。現代の地名の同定に用いた。参照したのは、以下のもの。

『扶綏縣志』扶綏縣志編纂委員会編、広西人民出版社、1989.4

『崇左縣志』崇左縣志編纂委員会編、広西人民出版社、1995.10

『大新縣志』大新縣志編纂委員会編、上海古籍出版社、1989.3

『天等縣志』天等縣志編纂委員会編、広西人民出版社、1991.3

『靖西縣志』靖西縣志編纂委員会編、広西人民出版社、2000.2

『隆安縣志』隆安縣志編纂委員会編、広西人民出版社、1993.3

『隆安縣志 1986～2006』隆安縣志編纂委員会編、広西人民出版社、2011.8

『賓陽縣志』賓陽縣志編纂委員会編、広西人民出版社、1987.12

『上林縣志』上林縣志編纂委員会編、広西人民出版社、1989.5

『忻城縣志』忻城縣志編纂委員会編、広西人民出版社、1997.1

『河池市志』河池市志編纂委員会編、広西人民出版社、1996.5

『宜州市志』宜州市地方志編纂委員会編、広西人民出版社、1998.6

『都安瑶族自治縣志』都安瑶族自治縣志編纂委員会編、広西人民出版社、1993.6

『南丹縣志』広西壮族自治区南丹縣地方志編纂委員会編、広西人民出版社、1994.10

『独山縣志』独山縣地方志編纂委員会編、貴州人民出版社 1996.5

『都勻市志』貴州省都勻市史志編纂委員会編、貴州人民出版社 1999.5

『地理志 黔东南苗族侗族自治州志』黔东南苗族侗族自治州地方志編纂委員会編、貴州人民出版社、1990.10

『福泉縣志』貴州省福泉縣地方志編纂委員會編、貴州人民出版社 1992.11
『貴定縣志』貴州省貴定縣志編纂委員會編、貴州人民出版社 1995.7
『龍里縣志』貴州省龍里縣志地方志編纂委員會編、貴州人民出版社 1995.9
『平壩縣志』貴州省平壩縣地方志編纂委員會編、貴州人民出版社 2004.9
『鎮寧布依族苗族自治縣志』鎮寧布依族苗族自治縣志編纂委員會編、貴州人民出版社 2002.5
『關嶺布依族苗族自治縣志』關嶺布依族苗族自治縣地方志編纂委員會編、貴州人民出版社 2002.1
『安順市志』貴州省安順市地方志編纂委員會編、貴州人民出版社，1995.11
『地理志 六盤水市志』六盤水市地方志編纂委員會、貴州人民出版社 1997.12

- (3) ここは飛び地。
- (4) 「口」偏に旁が「案」。
- (5) 粵西遊日記三の、この広西西南部の旅が、湖南おける襲撃事件を除けば、最も苦難に満ちたものであったろう。瘡病を抱え、輿が必要だが、土地柄また時勢柄輿夫集めに苦勞し、よく南寧に帰還できたものだといえる。

(2017年10月30日提出)

(2017年11月18日受理)